

以下の表は、**変数増加法:尤度比**によって方程式に含まれた共変量と、**変数減少法:尤度比**によって方程式中に含まれた共変量の違いを示したものです。変数減少法では、人種 **race**と喫煙の有無 **smoke**が有意な因子としてモデルに含まれています。

| 変数増加法 | 尤度比 | 変数減少法 | 尤度比 |
|---------|------------|---------|--------------|
| 最終月経時体重 | lwt | 最終月経時体重 | lwt |
| 早産の回数 | ptl | 早産の回数 | ptl |
| | | 人種 | race |
| | | 喫煙の有無 | smoke |
| 高血圧症の既往 | ht | 高血圧症の既往 | ht |

Figure3.7.4 変数増加法と変数減少法による方程式中の変数の違い

変数増加法は、従属変数に対して影響のある共変量を1つずつモデルに投入するのに対し、変数減少法はいったんすべての共変量をモデルに含め、従属変数に対する影響のない共変量を1つずつ減少させていきます。共変量に相関がみられる場合は、変数増加法と変数減少法でまったく異なるモデルになることは珍しくありません。

POINT

変数増加法だけでなく、**変数減少法**も試行することが推奨されます。2つのモデルで差異がみられる場合は、その違いが何に起因するものかを考察します。なお、ステップワイズ法だけではなく、最終的には**強制投入法**に戻して、共変量の投入や除去を手動で試行して、モデルを作成することが重要です。